

保護者と子どもの個別インタビュー調査集約(中間結果)

日向市子どもの未来応援会議
(事務局 健康福祉部福祉課)

○聴き取り期間 平成28年12月21日 ~ 平成29年1月13日

○インタビューア 委員4人 事務局2人 委員所属機関職員1人

○聴き取り世帯数 9世帯(母親9人 高校生以下の子ども4人 30才以下の若者2人) * 今回(第5回会議)では、うち7世帯の調査結果について、共通傾向や特徴的な状況を下記のとおりとまとめた。

困窮要因・機会や支援の欠如(社会的な排除)のプロセス・直面している課題		現行支援+不足している支援やニーズ
親におけるあらわれ方	子ども・若者におけるあらわれ方	
<p>■ 幼少期or子ども期における父母の離婚・死別 または 父母の不安定就労 ⇒ ・子ども期における生活困窮、養育環境の欠如(虐待事例も)、機会・自由の不全 ・自身の親との関係不全</p> <p>その結果 ○中卒または高校中退 → 不安定就労、就労が継続できない、昼夜ダブルジョブ資格持たないまま中年期へ移行 *「高校の学び直しより、収入増につながる資格を取得したい」という声も * 家庭と関係機関の関わり機会が乏しく発達の遅れが支援されず成人に至った方も ○生活基盤や人生経験が不足する中で若年段階での結婚や、出産・離婚 * 愛情の表現=性的関係の受け止め等から、未成年期から出産・離婚を繰り返すケースも</p> <p>離婚の背景 夫からのDV 借金(計画的な家計支出に至れず)</p> <p>父親：認知せず 養育費支払わず のケースも</p> <p>離婚や、不安定な就労と生計の長期化、傷病悪化による失業などがきっかけとなり、</p> <p>生活困窮・養育不安に</p> <p>①生活困窮 ◇子どもをふくめた食費の切り詰め ◇国保税を滞納し病院受診が難しい、医療費支払いが困難で母子医療も利用できない ◇子どもを預けられず、入院治療や既往症の病状改善に至れず ◇子どもにお小遣いを渡せられない、習い事や学習塾を受けさせられないetc ◇子どもの進学時・進学後の費用負担が心配、奨学金の返済不安 ◇発達の遅れのある保護者は、就労への不適応や家計管理・生活工夫の困難が ◇現状への認識不足がみられるケースも(金銭消費や不安定な生活習慣など)</p> <p>②養育不安 ◇十分な養育を受けられなかった中で子への身体・心理的虐待やネグレクトの事例も ◇子どもの学年が進むと、勉強をみてあげられにくくなる ◇物理的に余裕のない生活の中で、子どもの生きづらさのサインをみつけられないことも ◇子どものつまづきに対し自責の念も</p> <p>③地域からの孤立 ◇子の引きこもりに対する偏見(親のしつけ・子育て・子の怠けと解釈される)を感じ、子どもの存在や問題をオープンにできない</p> <p>●相談できる存在 姉妹・母・友人・母子父子寡婦自立支援員・母子寡婦福祉連絡協議会・相談支援機関の支援者・無業の子どもをもつ等の同じ境遇の知人 など</p>	<p>愛着障害的な傾向 ◇「気に入らないことがあるとモノにあたる」 ex.兄のゲーム機を壊したり、消しゴムを細かく切り刻んだりetc</p> <p>発達の遅れ ◇「小学3年の頃から算数・国語・社会がわからなくなった」 ◇「小学4年生だが、たし算・引き算ができない」</p> <p>家庭の変化や置かれた状況への心的混乱 ◇両親の離婚を受けて、親への反発や、中学進学後の「荒れ」 ◇離婚等が原因で生活レベルが落ちることへの適応に、なかなか納得できない</p> <p>行動や思いの抑制 ◇困窮のため友達を家に呼びたくなく、信頼している友達にしか家を教えない ◇家計に気兼ねして、高校の修学旅行に行かない</p> <p>人間関係への不安・ぶつかり ◇同級生と良好な関係が築きづらい ◇人との関わりが苦手、人前で話すことができない ◇担任教師など関わりのある大人との関係性でのぶつかり</p> <p>外的要因として、「いじめ」など</p> <p>のびのびとした年相応の育ち・過ごしに至れない</p> <p>自己肯定感・自己有用感の不足</p> <p>具体的な進路や目標を持てづらい</p> <p>学業の不振 今回聴き取りでは数学・英語・国語</p> <p>不登校、進学断念、就労の失敗 → 引きこもり ◇「他人の視線が気になる」 ◇同世代からの孤立 * 自死に至ったケースも</p> <p>外的要因として、法定外な働き方の強制や雇用の格差</p>	<p>①聴き取りの中で出された現行支援 児童手当、児童扶養手当、生活保護、ひとり親の相談支援、母子寡婦福祉連絡協議会、子どもの学習支援、若者の居場所サロン、年金制度の活用、債務整理、奨学金申込み、一時保育、夜間保育、子育てサロン、母子医療、障がい児通所支援・短期入所</p> <p>②あったらいい又は不足している支援・資源 ○家族支援プログラム(新年度予算要求中)の実施～子育て講座・親支援のワークショップ、カウンセリング相談など ○給付型奨学金 ○大学進学や希望職種について経験者や現役キャリアと交流 ○妊娠の確定診察(初回診察)における費用助成 ○ひとり親への就労支援の拡充、就労時の企業理解 ○就労移行支援・就労体験・職業訓練・資格取得支援(情報提供) ○居場所サロンや地域で日常的な関わりを持てる協力者を得る ○知的障害疑いがうかがえる段階での就労フォロー・家計支援 ○家族全体への支援アプローチ(家計改善や各々の目標の確認) ○制度の狭間対策～長期的に途切れなく支援を行う機関が必要</p> <p>③聴き取りで得られたニーズ ○母子会や関係する相談機関の当事者への早期紹介 ○生活保護受給における自動車所有容認要件の緩和 ○引きこもり者への経済支援と地域への啓発、家族会 ○好きなクラブや習い事を気兼ねなく続けられる機会が欲しい ○就学援助の新入学給付を入学前の前年度中に支給してほしい</p> <p>子ども・若者の好きなこと・得意なこと</p> <p>19才男子:TVゲーム、マンガ、スポーツ、囲碁、暗記、作文 14才女子:寝ること、卓球、パソコン 17才女子:小説の読書 * 一方で苦手なことで共通して多かったのは、「人が多いところ」「人と関わること」「人前で話すこと」</p> <p>インタビューでみられたストレングス</p> <p>(親) ☆「生活費を工夫しながら、子どもに好きなことをやらせたいと、希望する習い事を保障してあげた」 ☆「上の子が就職したら、自分の就労収入で下の子との生活を維持できるようにして、生活保護から自立したい」 ☆ずっと資格を持たないままだったが、40才をこえてヘルパー免許を取り、50才なかばの今、介護福祉士試験を受験する(子ども・若者) ☆中学期は荒れていたが、親との大ゲンカを経過して、高校期は家計を支えるためバイトを頑張ってくれた ☆家族を支えるために、心理カウンセラーになりたい(高校3年) ☆人を助けるために、看護師になりたい(中学3年) ☆「学習支援を受けることで、苦手な教科が分かるようになり、勉強が楽しくなった 良いチャンスをもたらしたと思う」 * その他、生きづらさに直面しながらも、親と子で何でも話せる関係を持ったり、明るく支援者を迎えてくれる家庭もありました</p>